

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	旧岡村邸フリースペース「カリ版楽校」
事業名(副) ※任意	子ども育成支援と農泊に変わる地域の働く場

入力数 主 18 字 副 20 字

実行団体名	一般社団法人がもう夢工房
資金分配団体名	公益財団法人東近江三方よし基金

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域		分野	
<input checked="" type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/>	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		<input type="checkbox"/>	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	④働くことが困難な人への支援
		<input type="checkbox"/>	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/>	⑥地域の働く場づくりの支援
		<input type="checkbox"/>	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>	
------------------------	--------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
4.質の高い教育をみんなに
8.働きがいも経済成長も
11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021年5月 ~ 2022年2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (東近江市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	学校に行きにくい子どもたち 地域住民	事業 対象者人数	蒲生地区住民 概ね14,000人
------	-------------------	------------	--	---------------------------------------	-----------------------	-------------	---------------------

I. 団体の社会的役割

<p>(1)申請団体の目的</p> <p>当団体は、まちづくり協議会の実践部隊として、蒲生地区の2030年将来像『このまちで心豊かに住み続けたいと思えるまちづくり』を実現するために、住民の資金（志金）をもとに2015年度に設立した法人です。</p> <p>まちづくり計画のヒト・モノ・カネを循環させるため現在は、「食の6次産業化」、「地域資源を活用した着地型観光」、「地域の子どもは地域で育てる活動」の3事業を行う。</p>
<p>(2)申請団体の概要・事業内容等</p> <p>・「食の6次産業化」では、①コガモカフェ、②コガモマルシェ、③特産品の開発販売、④援農隊</p> <p>・「地域資源を活用した着地型観光」では、①農泊・座禅体験・まち歩きなどの着地型観光の企画・運営、②あかね古墳公園の指定管理と活用、③ガリ版伝承によるまちづくり全体構想作成とそれに基づく取組、旧岡村邸の管理活用</p> <p>・「地域の子どもは地域で育てる活動」では、①コロナ化での200円弁当の展開、②ひとり親家庭への食支援を行う東近江ワンベアレントサポート</p>

入力数 (1) 180 字 (2) 217 字

II. 事業の背景・社会課題

<p>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</p> <p>■蒲生地区の教育委員と地域学校協働活動推進員との意見交換より、「日常生活や成長に困難を抱える子ども育成支援」の加速化が課題。</p> <p>【コロナをきっかけに家で過ごしにくい子どもたちの増加】</p> <p>コロナ禍により、親の在宅勤務、不要不急の外出自粛等により家族全員が同時に家にいる時間が増えた。これにより、対立が強まった家族が急増し家で過ごしにくい子どもたちが増加。</p> <p>【コロナをきっかけに学校に行きにくい子どもたちの増加】</p> <p>全国では7年連続で小中学校の不登校が増加。県や市でも同様の傾向で、90日/年以上学校を休んだ小・中学生は、市で170人超。新型コロナウイルスによる去年の臨時休校や感染不安をきっかけに、不登校など学校に行きにくい子どもたちが増加。</p> <p>【芸術体験や自然体験が不足した子どもたちの増加】</p> <p>感性などを育む芸術体験、自己肯定や情緒安定の向上のための自然体験が不足した子どもたちが増加。</p> <p>【旧岡村邸をもっと地域に根差した場にする】</p> <p>ガリ版を発明普及した近江商人堀井家の番頭であった岡村氏の古民家を借り受け、ガリ版文化を発信しようとする活動を開始。その旧岡村邸をもっと地域に根差したスペース「場」にしたい。</p> <p>■「地域の働く場づくり」の加速化が課題。</p> <p>【コロナで衰退した農泊に変わる地域資源を活用した働く場づくり】</p> <p>令和元年度、着地型観光の主要事業である農泊では90人を25世帯で受入れ、約100万円の収入を得るまでになっていた。しかし、令和2年度は0となった。農泊に変わる地域資源を活用した働く場づくりが課題。</p> <p>【近江商人堀井家の企業精神・ガリ版文化の発信・地域ビジネス化】</p> <p>蒲生地区は市の三大発祥地のひとつである「ガリ版発祥の地」で、昨年度ガリ版伝承にまちづくり全体構想を策定して、これにそって関連団体が役割分担・連携により、近江商人堀井家の企業精神、ガリ版文化を発信して、ソーシャルビジネスを構築していく。</p>

入力数 797 字

III. 事業内容

<p>(1)事業の概要</p> <p>ガリ版は蒲生で生まれ世界に広められた。この発祥の地にあるガリ版に由来のある古民家旧岡村邸を改修してフリースペース「ガリ版染校」（拠点）として、コロナ禍で学校や家に居づらくなった子ども育成支援と農泊に変わる地域の働く場づくりを行う。</p> <p>子ども育成支援は、もと教師、孔版作家等の芸術家、地域活動家などと連携して、地域資源を活用し「学習支援」、「芸術体験」、「野外体験」、「食支援」を子どもたちの意欲と生きる力を育む体制が構築して、2022年度の開設を目指す。</p> <p>地域の働く場づくりは、近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化、それが生まれた地域を活用して、企業研修の受入体制や地域ビジネスを構築する。</p>
--

入力数 294 字

<p>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</p> <p>蒲生地区まちづくり計画書の2030年蒲生地区の将来像である「このまちで心豊かに住み続けたいと思えるまち」を目指し、古民家旧岡村邸を拠点として「地域資源を活用した体験を軸にして子どもたちの意欲と生きる力を育む活動が始まっている」、「近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化、それを育んだ地域を題材に、企業研修の受入体制や地域ビジネスが始まっている」</p>
--

入力数 171 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>■子ども育成支援</p> <p>1.地域資源を活用した体験を軸に、子どもたちの意欲と生きる力を育む体制が構築されはじめている</p>	<p>総働体制図 教材 運営計画 試行</p>	<p>総働体制図、教材、運営計画、試行の確認</p>	<p>総働体制図、教材、運営計画、試行ができています</p>	<p>2022年2月</p>
<p>■地域の働く場づくり</p> <p>2.企業研修の受入体制や地域ビジネスが構築されはじめている</p>	<p>総働体制図 研修資料 営業資料 試行</p>	<p>総働体制図、研修資料、営業資料、試行の確認</p>	<p>総働体制図、研修資料、営業資料、試行ができています</p>	<p>2022年2月</p>

(4)活動	時期
活動拠点である古民家旧岡村邸の改修整備、インターネット環境の整備、新型コロナウイルス感染対策整備	2021年5月～2021年12月
<p>■子ども育成支援</p> <p>1-1.自宅、学校以外で学んだり友達と過ごしたりできる居場所や子ども食堂の提供準備としてのネットワーク構築（関係者との話し合いや他のフリースクールとの交流など）</p> <p>1-2.学校に変わる学習の場の提供準備（講師（協力者への依頼）、教材・運営計画（授業料含む）等の検討・作成）</p> <p>1-3.ガリ版を活用した芸術体験の場の提供準備（芸術家、ガリ版作家等への依頼）</p> <p>1-4.農地や川を活用した野外体験の場の提供準備（農家や環境系NPO等への依頼）</p> <p>1-5.2022年度よりフリースペース（将来的な自宅、学校以外の第3の居場所フリースクール）として活用するための試行</p>	<p>2021年5月～2022年2月</p> <p>2021年5月～2022年2月</p> <p>2021年5月～2022年2月</p> <p>2021年5月～2022年2月</p> <p>2022年1月～2022年2月</p>
<p>■地域の働く場づくり</p> <p>2-1.謄写版に所縁のある企業などを対象とした少人数制の企業研修の場の提供準備と試行（研修・営業資料の作成、企業訪問、試行）</p> <p>2-2.ガリ版文化の発信・地域ビジネス化の拡大</p>	<p>2021年5月～2022年2月</p> <p>2021年5月～2022年2月</p>

IV.事業実施体制

<p>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人がもう夢工房 事務局 関係者への依頼、管理 ・理事長：向井隆 ・事務局長：東田八郎 ・子ども育成支援執行理事：綾 康典 ・地域の働く場づくり、旧岡村邸改修執行理事：田中浩 ・コガモカフェ：食の提供 ・経理：村田政邦
<p>(2)他団体との連携体制</p>	<p>■子ども育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲生地区内の3小学校・1中学校、教育委員、地域学校協働活動推進員：ターゲットとなる子ども・親や講師の紹介、教材づくりの支援など ・民生児童委員：ターゲットとなる子ども・親の紹介 ・社会福祉協議会：学習支援や子ども食堂との連携 ・蒲生考現倶楽部、農家、孔版作家：体験での連携 ・ひがしおうみフードバンク：食材の提供 ・東近江市（こども政策課、こども相談支援課）、東近江市教育委員会、まちづくり協議会 <p>■地域の働く場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲生地区農泊受入農家 ・孔版作家:体験、作品の提供 ・梵釈寺：ガリ版を発明、普及した近江商人堀井家の菩提寺、座禅・写経の体験、精進料理の提供 ・蒲生考現倶楽部：体験の提供 ・蒲生岡本町、ガリ版芸術村：地元の窓口 ・地元飲食店：地域食などの提供 ・新ガリ版ネットワーク：全国のガリ版関係者とのネットワーク ・日本グラフィックサービス工業会、ビジネス機械・情報システム産業協会 デジタル印刷部会（デュプロ、リコー、理想科学工業）：視察研修の企業営業への協力 ・蒲生地区ガリ版伝承によるまちづくりの会：地区内のガリ版伝承によるまちづくり活動を行う団体とのネットワーク ・東近江市（歴史文化振興課、博物館、観光物産課）、まちづくり協議会
<p>(3)想定されるリスクと管理体制</p>	<p>新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団）の発生のリスク：「東近江市イベント開催の考え方について」に準拠して事業を開催する</p>

V.関連する主な実績

<p>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</p>				
<p>新型コロナウイルス感染症に係る事業</p>				
<p>①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)</p>	<p>有 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>無 <input type="checkbox"/></p>	<p>有の場合 その詳細</p>	<p>ひとり親家庭への食支援を行う東近江ワンペARENTサポート</p>
<p>②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない</p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）</p>		
<p>(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績</p>				
<p>■子ども育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国では7年連続で小中学校の不登校が増加。県や市でも同様の傾向で、90日/年以上学校を休んだ小・中学生は、全国で163,000人、県2,000人、市で170人。 ・令和元年10月に文部科学省初等中等教育局長から「不登校児童生徒への支援の在り方について」が各市の教育委員会に通知された。この中で、学校以外の場における多様な教育機会の確保が教育委員会に求められている。その際、多様な教育機会を提供しているフリースクール等の民間団体との連携の強化が求められ、さらには、ICTを活用した家庭学習支援等も進めることが規定されている。これを受けて草津市教育委員会では2021年度、市内在住の不登校の小中学生の保護者を対象にフリースクール費用の助成（月4万円）をする。居場所や学びの確保、将来の社会的自立に向けて後押しするほか、家庭の経済的な負担を和らげる狙い。 ・近年、子どもたちの間でも格差が拡大し、家庭状況による子どもの格差が深刻化している。多くの子どもたちが様々な困難に直面しており、経済的ハンディを背負っている子どもは約260万人いるといわれる。特にコロナ禍においては格差が拡大し、自殺する子どもが増えるなど、手を差し伸べる必要がある子どもが増加している。このような状況の中、日本財団が、2016年から設置・支援してきた「放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所「子ども第三の居場所」事業」を2021年4月に拡充する。「子ども第三の居場所」では、学習・食事・生活指導はもちろんのこと、時には学校や家庭では体験できないような、キャンプや旅行などの野外活動、最先端のプログラミング教育などを通じて、子どもたちに感動体験を重ねてもらうとともに、生き抜く力を育むことを目指している。 ・コロナ禍で貧困した子どもたちのための200円弁当を展開 ・ひとり親家庭への食支援を行う東近江ワンペARENTサポート事業を立ち上げ、蒲生地区だけでなく全市的な支援を展開。これにより市子ども政策課、社会福祉協議会、ひがしおうみフードバンクとのネットワークをつくる。 ・子ども育成支援執行理事の綾は、教育委員と地域学校協働活動推進員で、小中学校やもと教員とのネットワークを持つ。また、体験学習で連携する蒲生考現倶楽部の理事でもある。これらの活動より、本事業の必要性を感じる。 <p>■地域の働く場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当団体では農泊・座禅体験・まち歩きなどの着地型観光の企画・運営をしてきた。特に農泊は、令和元年度、90人を25世帯で受入れ、約100万円の売り上げる地域の働く場にまでになっていた。 ・蒲生地区は、ガリ版発祥の地〜ガリ版の（聖地）である。2019年度は、ガリ版伝承館開館から約20年が過ぎ、ガリ版伝承の活動を取りまく環境が大きく変化している中、まちづくり協議会の主体で蒲生地区においてガリ版伝承に関わる様々な人が集まり、「蒲生地区におけるガリ版伝承を考える会」を3回開催した。 ・2019年7月8日の第1回では、蒲生地区におけるガリ版伝承に係わる各団体のこれまでの取組内容について共有。10月25日の第2回では、東近江三方よし基金の「ガリ版伝承によるまちづくり活動事業」に採択されたがもう夢工房の提案内容を把握して、各々が蒲生地区におけるガリ版伝承のためにできること、したいことについて共有。12月20日の第3回は、「ガリ版伝承によるまちづくり全体構想」を共有した。2020年度よりこの構想をもとに各団体が活動を開始している。 ・当団体では、2019年度より古民家岡村邸を借り受け、近江商人堀井家の企業精神とガリ版文化を蒲生地区から発信しようと活動を開始。フォーラム、様々なガリ版体験のメニューづくり、情報発信のためのホームページづくりを行っている。 ・地域の働く場づくり執行理事の田中は、旧蒲生町の役人で文化財を担当し、近江商人堀井家の企業精神とガリ版文化に精通している。また、全国のガリ版関係者とのネットワーク組織である新ガリ版ネットワークの事務局長であり、全国のガリ版文化の発信・地域ビジネス化の情報も知っている。また、新ガリ版ネットワークの企業会員であるガリ版を起源に発展した日本グラフィックサービス工業会、ビジネス機械・情報システム産業協会のデジタル印刷部会（デュプロ、リコー、理想科学工業）ともネットワークがあり、視察研修のニーズを伺っている。 				